



八千代オイコス かわら版

第42号

令和2年2月1日発行
NPO 法人八千代オイコス
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>



八千代ならではの「米づくり体験」を終えて ～豊かな生き物を育む谷津田と地元農家の応援のもとで～

この米づくり体験は二つの目的を持ってオイコスの事業として取り組ませていただきました。

一つはこんな自然豊かな場所で子どもたちに色々な体験をしてもらいたいという思いです。八千代市は東京に近く、今、他地方からの流入人口が増え、八千代市の全体がわからないまま住んでいる人がほとんどです。この自然豊かな八千代を、住むだけでなく楽しむ要素もあることを知ってもらいたいと思ったからです。ここでしか出来ない体験、八千代でしか味わえない体験が、オイコスにとって“米づくり”でした。

もう一つは、島田という場所を守っていききたいという思いです。八千代はどんどん開発が進み、八千代市の政策では八千代北部は自然を残す政策がとられています。でもそれは政策上で、島田に住んでいる人も高齢化が進み農業耕作者も減ってきています。耕作放棄地を何とかしたいという思いからです。にわか農業でしたが、水と太陽と地元農家の応援をいただけたことが幸いでした。ありがとうございました

オイコススタッフ 金室

楽しかったいねかり

小学3年 清水華帆

ゴールデンウィークに植えた小さな苗は、つゆと暑い夏の間には大きないねに育っていました。

9月15日、わたしの首くらいまでの高さのいねを、かまでかりました。しゃがんでかるのは大変だったけれど、バッタやカマキリ、カエルに会えて楽しかったです。

田植え、草取り、いねかりをやってみて、お米を作るのは大変なことだと分かりました。今度のだっこが、楽しみです。



いねかり体験

小学6年 青柳敬太

いねかり体験では、色々な発見がありました。一つ目の発見は、いねを結んだり、かたりすることがとても大変な作業だったことです。最初は、いねをかいていましたが、かいているうちに疲れてきて、結ぶ方にまわりました。炎天下の中では、まいってしまいました。

二つ目の発見は、生き物の多さにおどろきました。トンボを3から5匹、カマキリを3、4匹つかまえている子たちがいました。秋だからなのか、トンボがそこらへんを飛び回っていたり、いねをみるとカエルが出てきたり、自然がいっぱいでした。八千代の自然は一番好きです。



米づくり体験 —収穫祭・もちつき会—

春の田植えから、秋の稲刈りを経て、いよいよ最後のイベント=もちつきです。

12月15日、農業交流センター芝生広場に55名が集まり、各自持ち場にスタンバイし、9時スタート。

島チーフの指示のもと、餅っ子でこねた後、臼で、大人も子供も一生懸命杵を振り上げ、合い取りの合図で振り下ろす。搗きたての餅を、あん・きなこ・醤油で試食会。「美味しい」の声がそここに。持ち帰るのし餅は、自分たち親子で杵でつく。餅つきの風景が見られなくなってから久しいので、散歩の方々からも、声を掛けられ一段と、力が入る。午後1時過ぎには、24臼が搗き終わり、過去最短記録を更新。

これで、オイコス行事も本年は、店仕舞い。

オイコススタッフ 小林和幸

もちつき会

小学5年 田中海翔

今日は、ぼくが5月に田植えをして育てたお米を使ったもちつき会がありました。

もちをつく[きね]は重くてぼくは上手にできなかったけど、お父さんが手伝ってくれたので、楽しかったです。

つきたてのおもちは、すごくやわらかくて甘くておいしくて、いっぱい食べてしまいました。

ぼくは、今回のもちつき会が2回目だったけど、おいしいおもちをまた食べたいから、また参加したいです。





米づくり体験

米作り体験 ～脱穀～

山室友子

今にも雨が降りそうな空模様の中、今回の米作り体験において最後の田んぼへ向かいました。先日強風のため転倒してしまったハザ掛けは、オイコススタッフの皆様の皆様のおかげですっかり元どおりになっており、稲穂も無事で安心しました。

農家の方がコンバインを田んぼに運んできました。初めてコンバインを間近で見たので、その大きさに私も小学一年生の息子も大変驚きました。一連の作業の流れを教えてくださいました。みなでハザ掛けから稲を降ろしてコンバインに運び脱穀していきましました。効率的かつ短時間でどんどん稲を吸い取っていくコンバインの素晴らしさに感動しました。

脱穀後、コンバインから排出されたお米は真っ白で美味しそうでした。10kgの米袋にいっぱいお米を詰め終えたときは、春に泥の田んぼに足を取られながら必死に植えたお米が立派に育ってくれたことに感激しました。お米の成長を見守ることができた上、お土産のお米を頂き、本当にこの米作り体験に参加できて良かったと思います。オイコスの皆様へ感謝です。ありがとうございました。



花輪川パンジーの植栽 ～参加者全員で達成感～

今回のパンジーの植え付けは、花壇の整地作業と植え付け作業を2日に分けて行いました。幸い両日とも天候に恵まれ、秋の終わりとはいえ作業中は汗ばむほどの陽気でした。

10月28日は前回植えたサルビアの撤去と雑草除去、整地を実施し、花壇の植え付け準備を行いました。サルビアは、まだ赤い花が残っていました。花壇の整地の際、鍬を入れると地中から多くの根っこが現れ、植物の逞しさを感じました。時々よく育ったミミズが現れます。昔は多くいたオケラには会えませんでした。生態系の変化が感じられます。11月6日は、苗をいただきに緑化公社へ行き、その後苗を植え付けました。パンジーは、黄色と紫色の二色を600本ほど植えましたが、事前の準備がよかったため作業も順調に進み、作業終了に参加者全員で達成感に浸りました。また、花壇のそばの銀杏の実を下処理したものと大根を仲間からいただき、その日の晩酌でおいしくいただきました。

今、花輪川のパンジーの開花が目に見えようです。これからの川作業が楽しみです。

オイコススタッフ 川田 修



盛り上がった市民活動フェスティバル ～スタッフの力作そろい踏み！～

11月3日（日）、市民活動フェスティバルが、今年もフルガーデンで開催されました。

今年は、運営委員のご努力で各ブースが倍の広さになり、参加団体も工夫を凝らした作りになりました。体験していただくことを主眼に、オイコスブースも、花輪川の生き物展示は勿論、スタッフの力作「フィンガーフットボール&バスケット」が、子供・大人に大人気、また、竹とんぼづくり、けん玉体験、打出の小槌プレゼントなど、例年以上に盛り上がりました。オイコスの主たる活動、川の環境整備、川の学校、米づくり体験に加えて、オイコスの活動拠点である花輪川の位置や、花輪川から印旛沼までの大小河川の関係図を展示、新作の活動案内リーフレットも配って、入会の勧誘も行いました。

オイコススタッフ 小林和幸

秋のエコウォーキング

2019年10月20日(日)



はっきりしない空模様の中、オイコススタッフ7名(途中一名合流)の寂しいエコウォーキングは、10月20日(日)緑が丘駅を9時に出発した。昨日の雨でコースはところどころに水たまりがあり、道路コンディションは良くない。

緑が丘の住宅地を通り、東葉高速操車場を小高い丘より眺めて操車場東側脇道を歩いて操車場玄関に出る。道路を横切ってルート開発目的でまわり道をして八千代オイコス活動拠点の土橋に着く。道ばたの雑木林のカラスウリやムクの実、アケビの実等思わぬ発見あり。土橋に抜ける道の脇には集落の人々が祀った地の宮があり、故郷の道を思い出す。土橋よりゴミ拾い

開始。公会堂～尾崎橋～桑納川堤～ライスセンター前～尾崎橋～ゴールの土橋と、ゴミ集めに専念。私の万歩計は1万歩をオーバーしている。今回のウォーキングではゴミは以前より少なかったが、川の岸边や橋の袂には空き缶、ペットボトル、レジ袋、タバコの吸い殻等が捨てられている。また、桑納川堤はアスファルト舗装であるが、中央に亀裂が走っている。台風や大雨で決壊の恐れがあるのでと心配になった。エコウォーキング前に公民館、図書館、ふれあいプラザ等にチラシを配布し、市の広報でも募集したが応募はなかった。次回にはぎやかなエコウォーキングとなることを祈りながら解散した。

オイコススタッフ 新谷

図書紹介 ～小さな勇気をもった一冊～

ハチドリのひとしずく (いま、私にできること) 辻 信一監修/光文社刊

この物語は、南アメリカの原住民に伝わるお話です。

ある日森が火事になり、生きものたちが我先に逃げている時、ハチドリのクリキンディだけは、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落とすしていました。ハチドリは言います。

「私は、私にできることをしているだけ」

この短い、短いお話は、辻信一氏がこのハチドリのお話をアンデスの原住民族キチュアの友人から聞いて、強く胸を打たれ、「今、僕たちにできることは何だろう」と考え、このハチドリの話を一人でも多くの人に知ってもらおうと、一冊の本になったものだそうです。

地球温暖化、戦争、飢餓、貧困・・・私たちの生きている世界は、深刻な問題でいっぱいです。しかし、私にもできることがあると思えたら、その瞬間、私たちの問題の半分は解決しているのではないのでしょうか。この小さな本は、現在、多くの問題を抱えている地球に住む私たちに強烈な示唆を与えているような気がします。置かれた場所でできることをやってみよう！どんな大きな課題も一歩から始まる。小さな勇気をもった一冊です。

オイコススタッフ NON

編集後記

かわら版編集会議を持ちました。編集委員と発行目的や今後どんな企画内容にしていくかを検討しました。

マンネリ化しないよう、次年度に向けて模索しながらですが、団体のもう一つの顔となるよう役割を果たしていきたいと思います。(TANA-J)

発行責任者：川瀬 純一

問合せ☎：047-459-0025

mail : info@yachiyo-oikos.jp